

発行所
日本赤十字社鹿児島県支部
鹿児島市鴨池新町1番5号
電話 099-252-0600
URL : <http://www.minc.ne.jp/nisseki/>

赤十字かごしま

2008年赤十字運動標語及びキャッチコピー
人間を救うのは、人間だ。
Together for humanity
1部30円
(購読料は社資でまかわれています)
第178号

平成20年4月1日

赤十字基本原則：人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

聞いて効いて vol.44

「リウマチ」手の痛みと変形 手術でどこまで良くなる？ PART2

鹿児島赤十字病院 整形外科 恒吉 康弘 医師

当院はリウマチ・膠原病センターという肩書きもあり、県内外より多数のリウマチ患者様が来院されます。リウマチ患者様の多くに手の変形が生じますが、股関節や膝関節に比べ、あまり顧みられていないのが現状です。そのため長年不変な日常生活を強いられる患者様も多くいらっしゃると思われ、昨年の当コラム（vol.39）でも我が師匠である南川義隆先生が述べられていますが、私たち医療サイドが治療方法についてよく知らず、そのために情報がうまく伝わらなかったことが原因であると考えています。

私は平成十八年七月に当院に赴任して以来、南川先生のご指導の下、主にリウマチ上肢（肘・手）の治療に従事してきました。それから約二年近く経過しましたので、その間の成果について紹介させていただきます。

先生が見学に来られています。特別な技術を必要とする手術ではありませんが、手術以上に重要なのがリハビリテーションです。幸いなことに当院には手のリハビリを専門的に行う作業療法士が四名在籍しており、連日彼らが集中的かつ創意工夫に満ちたリハビリを行っているおかげで、良好な成績が得られています。

手術でよくなる点として、指の動き、使いやすさ、手の外観などが挙げられます。当院では手の手術を行う患者様に手術前後にアンケートを実施していますが、手術を決めた理由として最も多かったのが「手の使いづらさ」で、次に多かったのが「手の外観」でした。また手術後のアンケートで、手術後に良くなった点を挙げてもらったところ、



鹿児島赤十字病院 整形外科 恒吉 康弘 医師

「手の外観」で、次が「手が使いやすくなった」との答えでした。以上の結果から、患者様のニーズにある程度応えられているのではと思っています。またほとんどの患者様が今回の結果に満足され、他の患者様にも薦めたいと思われているようで、非常に嬉しく思っています。胸をなで下ろしているところです。



■錦江園 〆 節分 〆
今日は二月三日、節分の日です。どこからともなく赤鬼と青鬼が大きな声をあげながら現れ、鬼役にびつたりの職員が手には金棒を持ちブンブンと振り回し園内を走り回っています。利用者の皆さんも負けてはおられないと「鬼はそとー！福はうちー！」と鬼にめがけて力いっぱい豆を投げています。その気迫に圧倒されたのでしょ、威勢のよかった鬼は小さくなりながら一目散に逃げていきました。豆まき終了後、今年も健康で過ごせますようにと願いを込めて、豆と甘酒をいただきました。

日本赤十字社鹿児島県支部 URL : <http://www.minc.ne.jp/nisseki/>
E-mail : shibu-r@po.minc.ne.jp

赤十字の活動資金にご協力ををお願いします！

5月は赤十字運動月間です！！



日頃から赤十字活動にあなたのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

赤十字の活動資金にご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

赤十字運動月間とは？
5月1日は日本赤十字社の創立記念日です。また5月8日は赤十字の父アンソニー・デュナン（世界赤十字デー）です。

皆様から善意でお寄せいただいたこのよつな赤十字の活動は、

日本赤十字社鹿児島県支部 支部長 伊藤 祐一郎

人間を救うのは、人間だ。 Together for humanity

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society

いま、救わなければ。

赤十字の活動は、皆さまからの社資で支えられています。

世界の152か国に赤十字社が、赤新月社は33か国に存在します。

■香川県赤十字奉仕団一行が鹿児島市を訪問

平成20年2月6日、香川県坂出市赤十字奉仕団12名が鹿児島県を訪れ、本県の赤十字奉仕団や日赤鹿児島県支部との交流会を行いました。

交流会では、災害時の奉仕団活動や奉仕団の組織づくりが話題となり、活発な意見交換が行われました。

坂出市赤十字奉仕団の矢野委員長は、「災害の経験があまり無かったので、防災意識が低かったが、平成16年に台風災害に見舞われ、炊出しを実施したとき、平時の備えの必要性を実感した。」と話されました。

鹿児島県では、一昨年の北部豪雨災害において、各地で奉仕団による非常炊出しがいち早く行われており、大口市赤十字奉仕団の石塚龍委員長より、「自分が不在だったが、団員が連携して実施してくれた。やはり、日頃からの訓練や体制づくりが重要だ。」と話されました。

大口市赤十字奉仕団は、毎年研修会を実施され、炊出し訓練や救急法講習を通して団結を深めておられます。

さらに、いちき串木野市赤十字奉仕団委員長の淵脇紀子委員長からも社資募集や献血事業への協力の体験が話され、坂出市奉仕団の皆さんは、真剣に耳を傾けていました。

また、話題は桜島や天璋院篤姫、香川の讃岐うどんにも及び、楽しく充実したひとときとなりました。



■新愛称「献血プラザかもいけクロス」

鴨池新町にある「かもいけの血液センター」が、より親しみやすく、より多くの方々に献血にご協力いただきたいと、愛称を「献血プラザかもいけクロス」に変更し、これに合わせて平成20年4月1日にリニューアルいたしました。

新しく生まれ変わった「献血プラザかもいけクロス」は、待合室の雰囲気を一変させ、これまで以上にリラックスして献血いただけると思います。

更に県庁前通りに大型の縦型電光看板を設置して、様々な献血情報を発信するなど広報活動の強化に努めてまいります。

これからも安定的な輸血用血液の確保のために、県民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



善意の高額社資 ご協力ありがとうございました。

厳しい経済状況にもかかわらず、社資にご協力いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

平成19年11月21日から平成20年2月21日までの高額社資(3万円以上)ご協力の方は下記の通りです。(敬称は略させていただきます。)

※掲載につきましては、ご本人さまの同意をいただいております。

【個人】	【法人】
上村 俊朗	医療法人恵愛会 上村病院
内村 繁造	医療法人奎英会 むかいクリニック
内徳 久芳	医療法人三徳会 東医院
今村 久志	
加藤 勉伯	鹿児島空港ビルディング株式会社
白石 辰澄	鹿児島県水泳連盟
園田 貞博	鹿児島県税友会研修部
田原 睦郎	鹿児島市社会事業協会
恒吉 一秀	鹿児島東ライオンズクラブ
永森 節子	
西原 良治	株式会社大坪運送店
林 弘子	社団法人鹿児島県医薬品配置協会
松林 敦子	
山下 峯生	福島重成税理士事務所
弓削 正春	有限会社緑調剤薬局

**たくさんのご協力
ありがとうございます**

平成十九年度中に発生した自然災害の被災者を救済するために、多くの義(救)援金が鹿児島県支部に寄せられました。これらの義(救)援金は、一刻も早く被災者に届けられるよう、逐次本社及び被災地の赤十字支部に送金しています。

平成十九年度義(救)援金取扱状況は下の表のとおりです。

平成19年度義(救)援金取扱状況

義(救)援金	金額
熊本県大雨災害義援金	154,244円
平成19年新潟県中越沖地震	11,505,587円
宮崎県台風5号被害義援金	87,919円
秋田県大雨災害義援金	15,312円
平成19年能登半島地震義援金	1,761,301円
新潟県中越沖地震災害義援金	23,000円
地雷犠牲者救援金	10,000円
NHK海外たすけあい義援金 (バン格拉テシュ・サイクロン災害救援金含む)	1,996,828円

(平成20年3月1日現在)

世界の193か国がジュネーブ4条約に締約しています。

イベント 献血予告



4月から6月までの主要イベント献血を以下のとおり計画しています。献血へのご協力をお願いします。

- 4月 第24回ハート献血(枕崎市) (社)枕崎青年会議所主催
- 5月 第28回カーネーション献血(いちき串木野市) (社)串木野青年会議所主催
- 6月 信用金庫協会の日献血(鹿児島市・他) 鹿児島信用金庫協会主催

■平成19年度 ライオンズクラブ 献血推進セミナーを開催!

ライオンズクラブ(以下「LC」)は、地域社会の生活、文化福祉及び公德心などの向上はもとより、献血への協力、事業所への献血協力依頼、献血広報活動などに積極的に取り組んでいる組織です。

県内のLC会員に対して、血液事業への一層の理解と支援を得るために毎年「献血推進セミナー」を開催しておりますが、今年も2月22日(金)に鹿児島市のステーションホテルニューカゴシマにおいて開催したところ、LC国際協会337-D地区第2リジョンの各LC役員及び関係者、鹿児島県、県内各保健所など約70名に参加いただきました。

セミナーでは、宮貞夫リジョンチェアパーソンの挨拶の後、「献眼、献腎、献血」の地区推進委員長長脇善博氏(川内LC)から「九州地区LC献血委員連絡会議」における協議内容について報告がありました。続いて県業務課から「本県における血液事業の現状」について、血液センターから「献血から供給まで」についてなどの説明が行われました。

また、鹿児島城山LCの上原右名位氏、阿久根LCの橋崎一幸氏から、所属するクラブの地域に密着した献血協力の取り組み等について事例発表が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。今後の各LCのより一層の活躍が期待されます。

■バレンタイン献血開催!

2月10日(日)、鹿児島市のオブシアミスミにおいて「バレンタイン献血」が開催されました。この献血は、冬季における血液不足の解消と若年層の献血思想の普及・啓発を目的として、鹿児島県内の大学生・短大生・専門学校生などで構成される「鹿児島県学生献血推進協議会」が主催して開催されたもので、今年で6回目となります。

今年は、献血にご協力いただいた方にチョコレートなどお菓子の詰め合わせをプレゼントしたほか、喫茶スペースを設けてくつろいでいただけるようにしました。そのほか、献血の受付をされた方にハート型の紙をハート型のボードに貼っていただき、現在までの献血者数が絵的にわかるようにとの工夫や、ジャンケンゲームをするなど、イベント盛り沢山の一日となりました。

また、買い物客など道行く人々に献血推進のチラシや風船を配って、献血への協力をメンバーが声を囃らしながら一生懸命呼びかけました。



■第18回鹿児島輸血医療懇話会が開催されました

平成20年2月9日(土)、かごしま県民交流センターにおいて、輸血に関する最新の情報を共有していただくことを目的として「鹿児島輸血医療懇話会」が開催されました。18回目となる今回は、医療機関で輸血管理に従事されている方々の発表と、血液センターの業務集約に関する話題を中心とした内容で構成され、日本赤十字社九州血液センターの江口祐司事務部長をお迎えし、「血液センターの過去・現在・未来-特に集約化を中心とした話題について-」と題した特別講演を行っていただきました。当日は、約150名の方々が参加され、熱心に聴講されておりました。



「赤十字マーク」は、赤十字活動以外には使用することはできません。